

# 山梨県スポーツ指導者協議会

## 会報

第十四号

平成 16 年  
3 月 31 日  
発 刊



### 巻頭言

山梨県スポーツ指導者協議会

会 長 土 屋 金 藏

本県公認スポーツ指導者は平成十五年度一、四〇〇余名を数え、指導者協議会の果たす役割も益々重要となり、その組織的活動の活性化が求められている。本協議会は五月の総会・研修会、十一月には甲府・東八・東山支部の主管による研修会を開催し、会員の資質向上と連帯を図った。

また、本年度は協議会の事業推進について、県スポーツ健康課、競技団体、学識経験者、県体育協会、指導者協議会でプロジェクトを作り、事業推進案を作成した。特に理事会は協議会支部、競技団体、スポーツ健康課、県民スポーツ事業団、医・科学委員会、スポ少指導者協議会・レクリエーション委員会・教育事務所・小中学校体育連盟・高校体育連盟の各代表により構成し、事業を推進することとした。

本年十一月から県体育協会の地域スポーツ振興会議が県下五地区（峡北・峡中・峡南・峡東・郡内）で開催され、公認スポーツ指導者の活用を議題としたので、組織・有資格者の説明と該当地区の指導者名簿を配布し、各市町村の指導者を確認していた。これからの地域スポーツ振興に活用して下さるようお願いしたい。

現在、市町村合併が行われているが、それに伴い各市町村のスポーツ振興事業も検討されている。できるだけ市町村単位の協議会を組織して、市町村の教育委員会・体育協会・競技団体と連携し、スポーツ振興事業に参画するとともに、地域における問題点や課題を県協議会を通して、県体育協会や日本体育協会に提示し、指導環境の整備を図り、スポーツ振興の中核となって活動されるよう期待する。

### 関東ブロック会議に出席して

副会長 若尾 重 廣

平成十五年度第一回全国スポーツ指導者連絡会議・関東ブロック会議は六月二日・三日に「地域スポーツクラブと公認スポーツ指導者」を主テーマとして、栃木県宇都宮市で開催され、松野副会長と出席した。全体会では鈴木元一全国副幹事長より、全国幹事会決定事項としての共通テーマとして①公認スポーツ指導者制度の改定、②総合型地域スポーツクラブの設立と指導者の活用、が報告され、平成十五年度行事計画とテーマ①を中心に日体協金谷主事より説明があった。

一、平成十五年度事業計画一従来と異なる点として（一）各事業ともA級を実施しない。（二）海外スポーツ研修は三名になったこと。

二、指導者制度改定について一文科科学大臣事業認定制度は平成十七年度末で廃止され、新制度へ移行するとして、日本体育協会が加盟団体等と養成するスポーツ指導者の分類と役割(案)が示された。

一 研究協議は、主テーマを二回に分けて実施。  
初日は各都県における当面の活動目標と進捗状況、課題等について一各都県から出された資料に基づいて協議進行。各都県共通しての課題は指導協組織の強化と活性化。指導者の資質の向上であった。今回は地域スポーツクラブと関連づけてかなり具体的になってきた感じが強い。また、指導協を運営する上で指導協は「日体協公認スポーツ指導者制度」に位置づけがないことについての質問に対し、日体協田中部長より当初は競技別と市町村を重視していた。実際の現場と指導者との結びつきをしっかりと考えるよう考えていきたい。また、日体協とスポ少の公認資格の二本立てになっていることについては一本化していきたい。総じてスポーツ振興基本計画の中にある指導者養成マスタープランに基づき今後共意的に活動して欲しい旨回答と要請があった。

二、二日目は、各都県における総合型スポーツクラブ設立状況報告等をもとに協議進行。各都県とも設立数に差こそあれ試行錯誤の状況にあることが伺えた。また、行政指導型が主流であり、指導協が設立、運営にどう関わっていくかが浮かび上がってきた。特に松野副会長から甲府支部が独自の計画で五月より小学校区を中心とした指導が好評であり、父兄や地域住民を巻き込んで頑張ってみたい旨状況報告をし、大きな期待が寄せられたことは特筆される。

日体協では指導者を育成するが活用は県・市町村・競技団体まかせでは実がない。認知度の低いことは指導協・指導者自身にも問題がある。体育指導委員、小中高校の外部指導者委嘱等における条件を明記した制度を導入し、公認指導者の活用を各機関に働きかけて欲しいことを痛感した。資質向上は当然のことであるが、指導者一人一人が「組織の確立と活用」の為横の連携を密にして関係機関に働きかけることも肝要ではないか。それにつけても、山梨県スポーツ振興の推進と発展の為、指導協プロジェクト会で検討した活性化等が理事会で審議され、その結果を支部にもどして意向を吸いあげ十一月の臨時理事会で慎重審議の結果承認され、スタートすることとなった。期待は大きいですが、未知なことも多いので失敗を恐れ萎縮しがちであるが寛大な気持ちで叡智を結集し取り組んでいきたいものである。

〈主な推進事項〉

1. 指導者の資質向上と支援体制の確立

- (1) 指導者養成・活用事業計画の作成
- (2) 研究・研修の充実
- (3) 県公認スポーツ指導者登録制度(育成・認定)の確立
- (4) 各競技団体一貫指導体制の確立
- (5) 各競技団体一貫指導システムの構築
- (6) 指導者派遣制度の創設(登録者を中心に地域等へ貢献)
- (7) 外部指導者推薦制度の創設(認定指導者を推薦)
- (8) 表彰制度の確立
- (9) 受益者負担、還元制度の確立

2. 組織の充実と各関係団体との連携強化

- (1) 指導者協議会実施計画の作成
- (2) 各市町村一貫指導体制の確立への参画
- (3) 各競技団体との連携
- (4) 各支部との連携
- (5) 各関係団体(スポ少・学校・体指・レク・医科学・連協)との連携
- (6) 県・市町村行政との連携
- (7) 総合型地域スポーツクラブへの参画
- (8) 広報の充実

山梨県スポーツ指導者協議会の活性化について

〈山梨県スポーツ振興の推進と発展のために〉

本県においても、将来の展望として有資格指導者が果たす役割や責任の度合いが高くなっていくことはほかでもない、近年の国民体育大会における有資格者の登用や学校部活動における外部指導者の活用が物語っている。

その一例として、総合型地域スポーツクラブの中心的存在に有資格指導者が位置づけられているがその活用と位置づけを明確にし、クラブの運営・育成にあたって、施設等の面からも含め行政との連携を図りながらいかに取り組むかが課題となっている。

本県でも総合型地域スポーツクラブがさまざまな活動に取り組み、発展を遂げようとしている。今後有資格指導者を生かせる場を多く見いだすためにも本県の指導者協議会が中心となり研究・研修を重ねることが重要である。

指導者の資質の向上により、県のスポーツ人口を拡大させ、その底辺の拡がりは今後の若年層を初めとした競技力の底上げへとつながっていくことが予想される。

現状の支部活動の活性化だけではなく、競技団体との連携強化を図り、5年後・10年後の本県の公認スポーツ指導者協議会のあるべき方向性(ビジョン)を見出す中で、方法・計画立案を一步步構築することが大切である。

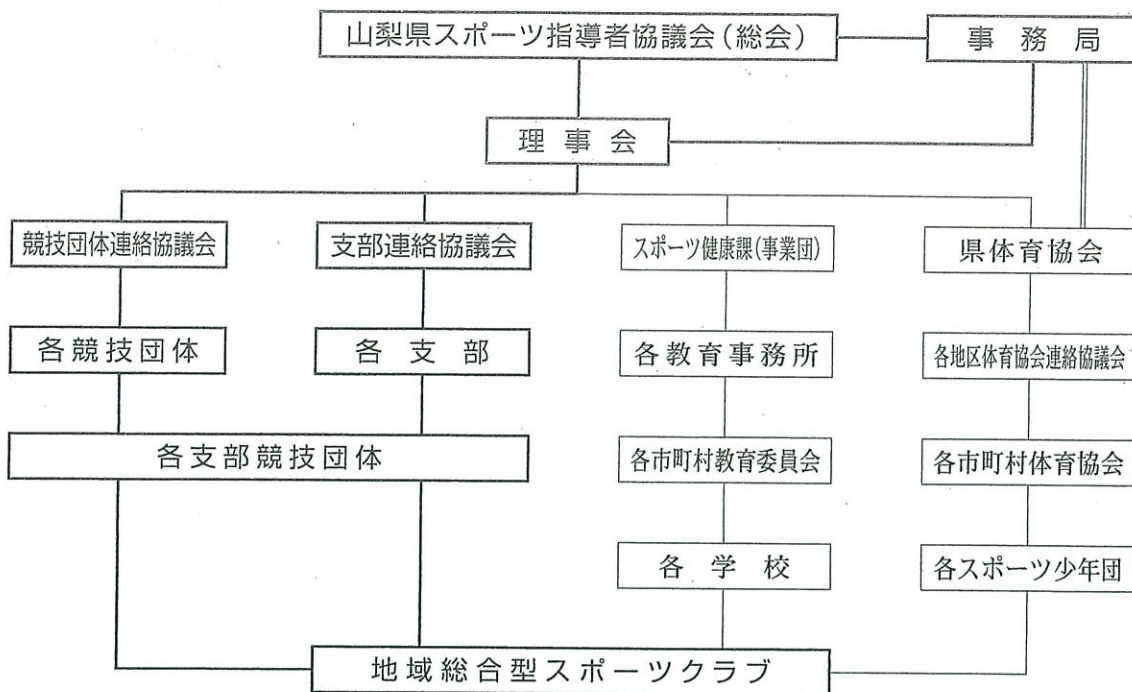
平成12年9月策定の国のスポーツ振興基本計画の具現化を計る方針等についても、本県協議会は行政(スポーツ健康課)・体育協会・各競技団体との協議や連携方法を早急に検討すべきと考える。しかし、これまでのスポーツ振興施策を指導者がどの程度理解し、その精神に沿って活動したかを考えるとき、行政のどこが誰を対象にスポーツ振興施策を周知徹底させるかが大切である。

以上の検討事案について、より良い解決案を探っていく中で、本県協議会・有資格指導者の新しい一歩を踏み出していきたい。

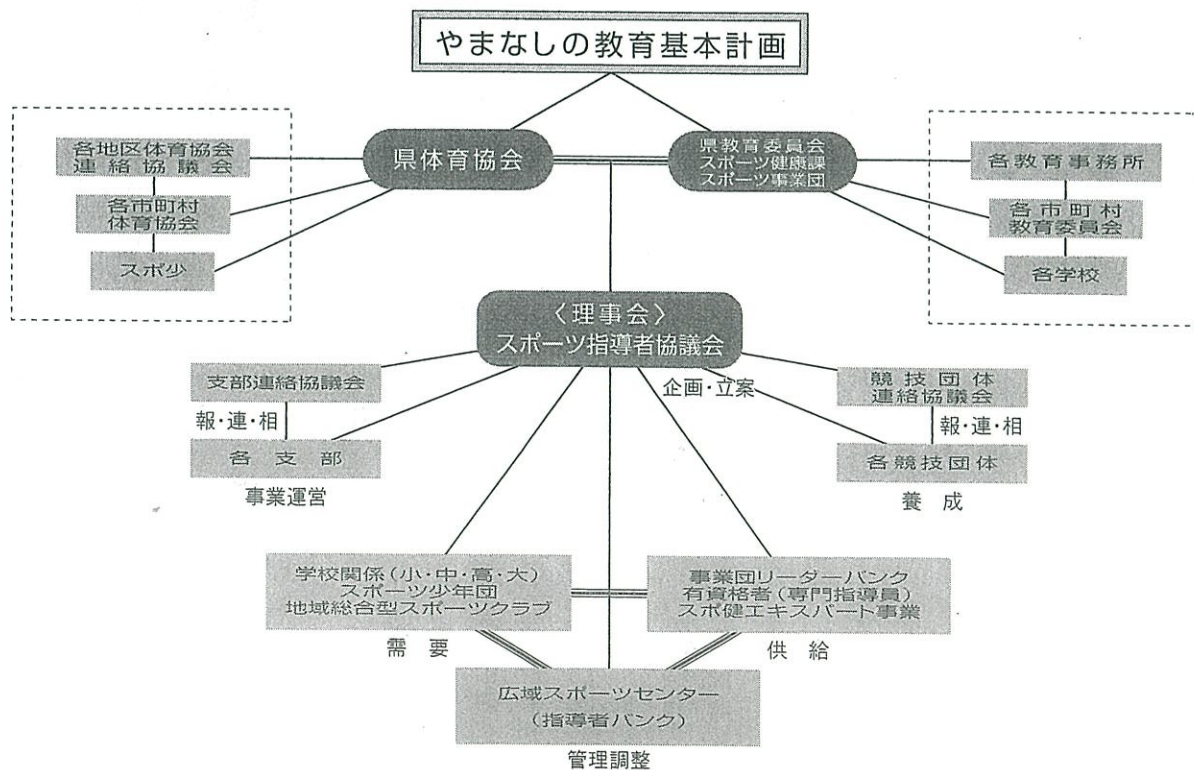
山梨県スポーツ指導者協議会推進事項の実施計画(5ヶ年計画〈案〉)

推進事項	2004	2005	2006*	2007	2008
<b>1 指導者の資質向上と支援体制との確立</b>					
<b>*資質向上</b>					
(1) 競技レベルの向上 *一貫指導体制の確立 *指導者研修制度実施	案 策 定 検 討、案 策 定	各 種 別 お よ び 部 会 で 決 定 実 施	実 施		
(2) 一貫指導システムの構築	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進
(3) 指導者の意欲向上	検 討	実 施	実 施		
(4) 公認スポーツ指導者養成・活用	実 施	実 施	実 施	実 施	
(5) 指導者バンク(指導者派遣制度)	検 討	実 施	実 施		
<b>*組織、財政の強化</b>					
(1) 地域型スポーツクラブとの連携と対策	検 討、案 策 定	実 施、推 進			
(2) NPO法人立ち上げの検討	検 討、案 策 定	検 討、案 策 定	検 討	推 進	推 進
(3) 各組織の構築、活用	案 策 定	逐 次 実 施			
(4) 会員登録制度の定着化	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進
(5) 受益者負担、還元制度の確立	検 討、案 策 定	実 施			
(6) 助成事業の確保(大塚製薬・toto)	実 施				
(7) スポンサー獲得諸制度整備	検 討、案 策 定	逐 次 実 施			
<b>2 組織の充実と各関係団体との連携強化</b>					
<b>*組織力の充実</b>					
(1) スポ健・県体協・事業団との連携強化	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進
(2) 各市町村スポーツクラブ登録を普及・啓蒙	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進
(3) 地域一貫指導システム体制の構築	検 討、案 策 定	実 施、推 進			
(4) 地域大会拡充	検 討、案 策 定	クラブおよび部会で決定	実 施		
(5) 地域組織運営見直し	検 討、案 策 定	クラブおよび部会で決定	実 施		
(6) ジュニア養成事業	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進
(7) 生涯スポーツとしての一層の普及・啓蒙	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進
(8) 小学生クラブ(スポ少)づくり	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進
(9) 中・高校部活性化(外部指導者推薦制度)	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進
<b>*広報力の向上</b>					
(1) テレビ放送の充実	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進
(2) 新聞報道の充実	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進
(3) 機関誌、会員報の見直し	検 討、案 策 定	実 施			
(4) 広報委員の育成	検 討、案 策 定	推 進	推 進	推 進	推 進
(5) マスコミ対応	推 進	推 進	推 進	推 進	推 進

〈山梨県スポーツ指導者協議会(に関する団体の)組織図〉



〈山梨県スポーツ指導者協議会(に関する)体系図〉



# 公認スポーツ指導者表彰を受賞して



公認スポーツ指導者表彰を受賞して

大塚 勝雄

(巨級スポーツ指導員・ソフトテニス)

「青空と水と緑の高根町」をキャッチフレーズとする山梨県の最北端の町、ここで私は生まれ育ちました。

私がソフトテニス（当時は軟式庭球）を始めたのは高校生の時であります。

入部してからは、放課後は勿論休校日にも部活動に励み、厳しい合宿生活を体験し前衛・後衛のポジションの試練を乗り越えて、試合に臨んだ若き思い出は実年となった今もはつきりと胸の片隅から消えることなく、何よりの宝物となっております。

社会人となってからも、町内をはじめ町村対抗、郡大会等々毎年これらの大会に出場し、若き青春のエネルギーをスポーツを通して燃やし続け、またこの時期に六箇月間のスポーツ指導者資格取得講習会に参加し、C級スポーツ指導者資格を取得することが出来ました。

以後、社会人を対象とするスポーツ教室の開催及び中学生への指導等により大勢の人たちにソフトテニスをマスターしてもらい、スポーツの楽しさを味わっていただくことが出来ました。

C級からB級指導員へと移行し、県のスポーツ指導者協議会の理事となり、スポーツ振興の道を探り微力を投じてきました。

そんな折、平成十五年度公認スポーツ指導者全国研修会の席上で公認スポーツ指導者表彰を受賞しました。

予期せぬ受賞であり、身に余る栄光を喜ぶと共に更に指導者の役割を自覚し、新しい知識を得て大きな夢と満足感を与えることの出来る指導者を目指したいと思えます。



公認スポーツ指導者表彰を受賞して

—スポーツクラブの設立について—

山田 泰 男

(B級コーチ・バレーボール)

この度、平成十五年度公認スポーツ指導者表彰を受けたことは身に余る光栄であり、今日までご指導いただいた方々に心から感謝申し上げますとともに、私自身の引き締まる思いであります。

さて、私が所属しております指導者協議会甲府支部では、平成十五年度より伊勢地区の小学生を対象とした「伊勢スポーツクラブ」を設立しました。このスポーツクラブは、選手育成のためのクラブではなく、子どもたちにできるだけ多くの種類のスポーツ活動をする機会を与えることにより、スポーツをする楽しさ、年齢に応じた身体活動を行うことによる健康の増進、スポーツを通しての友人関係の樹立等、人間としてより良く向上するための基本的な生活習慣の確立を目指し、毎週土曜日に活動しています。現在七十名ほどの小学生が登録しており、毎週二〜三種目のスポーツをローテーションで行い、子ども達は自分の興味のある種目を選んで嬉々として活動しています。十五年度は、バスケットボール、卓球、ソフトテニス、バレーボール、ニュースポーツ、水泳、スケート、ゲートボール、等の種目を実施しました。今後は支部会員のさらなる協力を得て、より多くのスポーツを子ども達に経験させる予定です。

私も今回の受賞を機に今後とも精進を重ね、このスポーツクラブをさらに発展させると共に、本県スポーツの振興のために微力ながら努力していきたいと考えています。



## 公認スポーツ指導者表彰を受賞して

—スポーツ技術の流れを—

天 野 俊 之

(B級スポーツ指導員・テニス)

平成十五年度公認スポーツ指導者表彰受賞に当たり、私自身振り返りますと、山梨県最初の高校生テニス部員としての責任と、何よりもテニス競技を愛好したことで今日まで頑張つて参りました。

何も無いものからの積み重ね、形を作ることと、愛好者を増やしテニス人口の拡大に努めることも。又、後輩の技術的指導に当たつても参りました。無我夢中の指導から少しずつ山梨、日本の競技と、技術の流れを感じ、学び、指導にあつて参りました。

全国各地の試合を転戦するのも大事な勉強です。また、各地の大会に出場すると同時に、それぞれの地域のコーチ、選手と話し合い、今のテニスの流れを感じ、それを指導に役立てて参りました。基本は同じでも技術は変わっています。同僚や後輩に県外へと勧めてもなかなか大変です。自分が出て何かを受けとめたものを指導に役立てる。こんな思いの三十年余り。でも、本当に成果があつたかなと反省も多い。全ての競技にいえるかもしれませんが、新しい技術の導入に対して、いろんな研究と努力が必要に思います。

自分自身での技術向上の努力では、全国に通用しません。選手、指導者一人一人が「大いなる研究」と「技術の流れを知る」。この気持ちを持つて頑張つてほしいと思います。私も、一生懸命頑張つてゆきたいと思つています。

この受賞は自分自身を振り返るよい機会でした。本当にありがとうございます。



## 公認スポーツ指導者表彰を受賞して

小 川 徹

(B級スポーツ指導員・水泳)

一九七六年に日本水泳連盟の公認水泳指導員資格を取得して二十七年余りになります。地域指導者・一般水泳指導員である私は、公認資格を取得し、水泳の普及にボランティアとして活動する夢を描いて参りました。

私たちの本務は競技力の向上を図るものではなく、それを目標として水泳人口を増やすことにあります。

地域指導者として今日まで、水泳の普及、地域水泳クラブの育成・「学校体育実技指導協力者派遣事業」等を通じて実際の体育の授業のなかでお手伝いをさせて頂いております。

この事業に協力していく過程で、「一人でも水泳好きの子どもを増やしたい、つまづいてる子どもたちに、水泳の楽しさを味わわせてやりたい」という同じ気持ちをもった仲間が集まり、その仲間同志で学習会を開いたり各種講習会や競技役員として競技会の運営に参加しながら、この事業に協力してまいりました。

此の度は、中央競技団体(財)日本水泳連盟より推薦を戴き、(財)日本体育協会 安西孝之会長より表彰楯を戴いた時にはその感激に胸の熱くなるのを憶えました。

この受賞を機に、微力ながら、さらに研鑽と努力をかかさね、学校現場や地域スポーツの場で、多くの子供たちや地域の皆様と水泳を通じて、豊かなかわり合いを深め、地域に貢献出来るよう努力していく所存でございます。

終わりに、「山梨県学校体育実技指導協力者派遣事業」に共に活動させていただいた指導協力者の皆様に、心より感謝を申し上げます。

## 平成十五年度公認スポーツ指導者 全国研修会に参加して

山梨県スポーツ指導者協議会西八代支部

支部長 赤 池 義 明

養成された指導者のより一層の資質向上と連帯感を深め、組織的活動による指導体制づくりを積極的に推進することを目的に、去る十二月十三日、十四日の二日間にわたり、標記研修会がホテル海洋で開催された。安西孝之日本体育協会会長より、指導者各位におかれては生涯スポーツ社会実現のために、これまで以上に活躍いただくことを期待すると主催者挨拶があった。

表彰式では、長年の功績が認められ百五十一名の方々が受賞され、本県では大塚勝雄氏、山田泰男氏、天野俊之氏、小川徹氏が荣誉ある賞を受けられた。

特別講演では、北里大学教授で二〇五万部を超えるベストセラー「バカの壁」の著者である養老孟司先生から「脳と身体活動」く脳からの指令くと題し、脳の働きと身体活動のかかわりについて、「国語は体育です」という切り口から話がされた。

その後、「ドーピングの正しい知識」く競技者及び指導者の心構えをテーマとして、筑波大学体育科学科教授、アンチドーピング機構理事長の高野一郎氏、福岡大学スポーツ科学部講師、ハードル選手としてバルセロナオリンピックから三大会連続出場の山崎一彦氏、日本大学法学部専任講師、バルセロナオリンピック柔道金メダリストの田辺陽子氏から、ドーピングはアンフェアな行為であることは勿論であるが、選手自らの健康をも害してしまふ。選手だけが注意するのではなく、指導者としても選手がしないよう注意を払う必要があるなど、多くの提言がなされた。

二日目のテーマ別研修では「地域スポーツクラブ」を題材に、四つの分科会に別れ研究が行われ、その後引き続いて「地域スポーツクラブの可能性」をテーマに、テレビ朝日の宮島泰子コーディネーターのもと、テーマ別研修のまとめをして全体会が開かれた。

研修会を通して、全国の仲間とともに新しい知己を売ることができた素晴らしい機会となった。得た知識は、今後の活動の中で活かしていければと意を決したところであります。

## 平成十五年度山梨県スポーツ指導者 研修会に参加して

ストレッチ運動実技講習会を受けて

南都留支部 清 水 智 一

平成十五年五月十二日は、甲府市において県スポーツ指導者協議会総会、続いて指導者研修会が開催されました。はじめに、健康科学大学健康科学部学部長井手隆俊先生に講演をしていただきました。先生には準備運動は事故防止に大変重要な役割を果たしているということを解説していただきました。特に、ストレッチ運動の必要性と効果については、幸運にも、私自身が先生に実際にストレッチ運動を指導していただくという機会にめぐまれました。わずか、一、二分のことではありましたが、ストレッチ運動をする前より前屈で十五センチ以上深く曲げることができるようになり、ストレッチ運動の効果について身をもって体験することができました。それは、驚くほどの効果で、まるで自分の体ではないような錯覚に陥るほどでした。

その後、二人一組となり一時間程度のストレッチ運動の実技講習会が行われましたが、どの方もその効果のほどに驚いていられるようでした。私自身、足を痛めている為歩く度に、床に足をつき、足を上げるという動作を意識的に繰り返すのが当たり前と感じていたのですが、ストレッチ運動後は、足が自然に前に進む感じを受け、驚きと感動を味わいました。

今後はスポーツ指導員として、ストレッチ運動の効果の素晴らしさと重要性を皆に知らせ、競技の前には怪我や故障の抑止という点から十分な準備運動を競技者全員で行うよう指導していきたいと思えます。

## 平成十五年度山梨県スポーツ指導者

### 研修会に参加して

#### テーピング実技研修を受けて

東山梨支部 武 藤 晴 己

平成十五年五月十一日、山梨学院大学のスポーツセンターでの講演に引き続き、ストレッチ・テーピング・サポーター装着・応急処置の四パートに分かれて実技研修が行われました。

私はこれまで競技者としてケガが少なく、テーピングを使用することもないため、知識もあまりありませんでした。過日、子供が脱臼したことでテーピングに興味を持ち、今回の研修ではテーピングに参加しました。

研修では、テーピングの説明を聞きましたが、種類も多く、また障害後のテーピングだけでなく、予防としてのテーピングもあり、目的によって方法も変わることを知りました。その後二人一組で実際に巻いてみましたが、テープにしわがよりどれほどの効果があるのかと不安になりました。受講者の中には経験者もあり、お互いに教え合ったりもしました。そして、手際よく巻いているのを見て、巻く位置・方向・回数等やはり何度も巻いて練習する必要があると感じました。指導者としてもつい医者まかせの所があった私ですが、この実技講習を機に努力しようと思いました。

また障害用のテーピングは時間では二十分くらいの効果しか得られないようです。他の器具との併用も必要であると感じました。今回はテーピングだけでしたので、その他の研修も次の機会に受講したいと思いました。

## 平成十五年度

### 山梨県スポーツ指導者協議会理事会等報告

平成十五年度は、三回の理事会が行われ、左記の内容が話し合われた。

#### 【理事会】

- 〔第一回〕平成十五年四月二十四日（木）スポーツ会館研修室
  - ・平成十四年度山梨県スポーツ指導者協議会事業報告・決算について
  - ・平成十五年度山梨県スポーツ指導者協議会事業計画・予算について
  - ・平成十五年度山梨県スポーツ指導者協議会総会
  - ・平成十五年度山梨県スポーツ指導者研修会について
  - 〔第二回〕平成十五年九月四日（木）
  - ・平成十五年度会報について
  - ・平成十五年度会報編集計画について
  - ・平成十五年度公認スポーツ指導者全国研修会について
  - 〔第三回〕平成十六年二月二十七日（金）
  - ・会則の一部改正について
  - ・平成十六・十七年度役員改選について
  - ・平成十五年度事業報告・決算について
  - ・平成十六年度事業計画・予算について
  - ・平成十六年度総会について
  - ・平成十六年度山梨県スポーツ指導者研修会について
  - ・各支部の現状と今後の活動について
  - ・今後の県組織のあり方について
  - ※ 支部設立時は、活発な活動を行っていたが、活動が活発な支部とそうでない支部の差が出ているのではないか。
  - ※ 支部総会・研修会を行っているところでは、参加率が悪くもつと多くの会員に参加して欲しい。
  - ※ 会費の徴収が思うようにいかない。
  - ※ 支部組織も大切だが、競技別の組織が必要なのではないか。
  - ※ 魅力のある組織づくりが必要。
- 等の意見が交わされた。

平成十五年度事業報告

期 日	会議の名称等	会場等
平成十五年 四月二十四日(木)	・第一回 理事会	スポーツ会館研修室
五月 七日(水)	・会計監査	緑が丘体育館会議室
五月十一日(日)	・平成十五年度山梨県スポーツ指導者協議会総会 (研修会)	山梨学院大学スポーツセンター
六月二十日(金) ～二十一日(土)	・第一回全国スポーツ指導者連絡会議(関東ブロック・県代表者参加)	栃木県
九月 四日(木)	・第二回 理事会	スポーツ会館研修室
十一月 七日(金)	・臨時 理事会	
十二月十二日(金) ～十三日(土)	・第二回全国スポーツ指導者連絡会議(県代表者参加)	東京 日体協
十二月十三日(土) ～十四日(日)	・公認スポーツ指導者全国研修会	東京
平成十六年 二月二七日(金)	・第三回 理事会	スポーツ会館研修室
三月二六日(金)	・会報・名簿の発刊	

平成十六年度事業計画 (案)

期 日	会議の名称等	会場等
平成十六年 四月二二日(木)	・第一回 理事会	スポーツ会館研修室
五月 七日(金)	・会計監査	緑が丘体育館会議室
五月十六日(日)	・平成十六年度山梨県スポーツ指導者協議会総会 (研修会)	北杜高校
五月二五日(火)	・第二回 理事会	スポーツ会館研修室
六月二五日(金) ～二六日(土)	・第一回全国スポーツ指導者連絡会議(関東ブロック・県代表者参加)	茨城県
九月 二日(木)	・第三回 理事会	スポーツ会館研修室
十二月 十日(金) ～十一日(土)	・第二回全国スポーツ指導者連絡会議(県代表者参加)	東京 日体協
十二月十一日(土) ～十二日(日)	・公認スポーツ指導者全国研修会	東京
平成十七年 二月二四日(木)	・第四回 理事会	スポーツ会館研修室
三月三一日(木)	・会報・名簿の発刊	